

施策を構成する事業評価

No.	14	担当課	菊川病院
-----	----	-----	------

1. 施策名

基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
施策名	1	医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます

2. 重点事業

事業名(中分類)	近隣病院・診療所との連携推進事業										予算事業番号 (予算事業名)		
事業指標	紹介率 逆紹介率	現状値 H27	実績値							目標値 R7	達成 状況(%)		
			H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		35.6% 27.7%	47.0% 23.1%	47.5% 22.5%	47.2% 26.4%							40.0% 30.0%	118% 88%
事業概要	超高齢社会が進む中で、医療需要は今以上に増加することが見込まれている。本市がある中東遠二次医療圏は、医療資源が乏しい地域であり、今後も住民に必要な医療を提供し続けていくために、人材面、機能面、情報面で近隣病院や地域の診療所との連携を推進していく。												
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 救命救急、小児医療など当院では対応できない医療について、IT連携による情報共有を行うなど近隣病院との連携を強化し対応している。 各病院で不足する診療科を補うために、医師の相互派遣や研修生の受け入れを行っている。 浜松科大学と近隣病院と共同で家庭医(総合診療医)を養成している。 近隣診療所から紹介患者や委託検査(高度医療機器等を使用したものを)を受け入れている。 地域包括ケア病棟では、在宅介護支援入院を導入し、近隣診療所からスムーズに入院できるよう努めている。 地域連携通信の発行による当院の状況の周知や、地域合同カンファレンスの実施により、近隣医療機関との関係の強化を図っている。 												
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 新専門医制度等の影響により都市部への医師の偏在が進む中、一医療機関で全ての診療機能を担うことは不可能である。二次医療圏内で急性期医療を確保していくためには、機能分担や効率的な医療連携が必要となる。 超高齢社会の進展により、在宅医療の供給不足が予測されており、当院としても在宅医療を担う診療所等へのサポートを行っていく必要がある。 												
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想に基づき中東遠二次医療圏における当院の役割を明確にし、不足する医療機能を互いに補完し合えるよう、人材面・機能面・情報面で連携を強化していく。 診療所のかかりつけ医機能・在宅医療をサポートするため、検査・入院医療を中心に、診療所が当院に紹介しやすい仕組みを整えていく。 												

事業名(中分類)	介護・福祉施設等との連携推進事業										予算事業番号 (予算事業名)		
事業指標	紹介率 逆紹介率	現状値 H27	実績値							目標値 R7	達成 状況(%)		
			H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		35.6% 27.7%	47.0% 23.1%	47.5% 22.5%	47.2% 26.4%							40.0% 30.0%	118% 88%
事業概要	超高齢社会が進む中で、病院医療から在宅療養・介護への継ぎ目の無いサービスの提供が求められており、情報共有や職員のつながりを中心に施設間の連携を強化する取組を行う。												
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県在宅医療・介護連携情報システムを活用した患者情報の共有の推進している。 病院・施設連絡会や在宅医療カンファレンス(家庭医療センター)を開催した。 当院の回復期機能を強化する(地域包括ケア病棟の導入)ことや退院調整支援を行うことで、在宅復帰や介護サービスへの移行を支援している。 												
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢患者は増加していくため、医療から在宅療養・介護サービスへのスムーズな連携は、今以上に重要となっていく。 独居高齢者、高齢者のみの世帯が増加し、退院後の療養など解決が困難な課題を抱えている事例が増えている。 												
今後の方向性(A)	高齢患者の退院後の療養を支援するため、介護・福祉施設のほか、行政との密接な連携体制を作っていく。												

3. 基本事業

事業名(中分類)	なし										予算事業番号 (予算事業名)		
事業概要													
取組内容・結果等(D)													
課題・問題点等(C)													
今後の方向性(A)													

施策を構成する事業評価

No.	14	担当課	菊川病院
-----	----	-----	------

1. 施策名

基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
施策名	2	菊川市立総合病院の機能を充実します

2. 重点事業

事業名(中分類)	なし										予算事業番号 (予算事業名)	
事業指標	現状値 H27	実績値									目標値 R7	達成 状況(%)
		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
事業概要												
取組内容・結果等(D)												
課題・問題点等(C)												
今後の方向性(A)												

3. 基本事業

事業名(中分類)	手術等の急性期医療提供事業	予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	地域の公立病院として、重度の患者に対し、手術等の急性期医療を提供する。		
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科・外科・泌尿器科、産婦人科では、当院で行うことができる手術を実施している。(令和元年度 年間手術件数:1,403件) 内科では、循環器疾患、消化器疾患を中心に幅広く対応している。 平成28年に整備した化学療法室により、外来でのがん化学療法を推進している。 		
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 新専門医制度により医師の都会への偏在が進むことも予想され、当院で臓器別専門医が確保できていくか不透明な部分もある。 診療科によっては、大病院へ医師の集約が進むものもあり、大病院や二次医療圏内の医療機関との連携の推進が必要である。 		
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 大学との関係を強化していくことにより、各科診療科の医師数を維持していく。 		

事業名(中分類)	在宅復帰に向けた回復期医療提供事業	予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	手術等の急性期の治療を終えた患者に対し、早期に在宅復帰できるよう回復期医療を提供する。		
取組内容・結果等(D)	平成28年度に急性期病床の一部を地域包括ケア病棟へ転換したことにより、急性期後から在宅復帰までの療養環境が充実した。在宅での療養を支援するために、地域包括ケア病棟の活用を推進している。回復期リハビリテーション病棟でのリハビリ機能をより充実させた。		
課題・問題点等(C)	病床機能転換後も病床利用率が安定せず、季節や気候による変動が大きい。		
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病棟では、院内の急性期病棟からの転棟だけでなく、在宅療養や他の医療機関からの直接入院も増やしていく。 空床が多い時期については、在宅療養を支援するために検査、指導入院を行っていく。 		

事業管理シート(施策)

基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
施策名	2	菊川市立総合病院の機能を充実します

事業名(中分類)	うつ病等精神科医療提供事業	予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	近年増加している「うつ病」等の患者に対し、精神科医療を提供する。		
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 精神科の急性期医療機関として、また、身体合併症を受け入れられる数少ない医療機関として、幅広く患者を受け入れている。 うつ病に対応するための電気痙攣療法の導入により、市外からも多くの患者を受け入れている。 		
課題・問題点等(C)	市内の精神科医療機関の閉院や精神疾患を訴える患者の増加により、予約から初回受診までの期間が長くなることもある。		
今後の方向性(A)	近隣の精神科関連医療機関(病院・診療所)との役割分担を明確にし、他院からの紹介での受診を推進する。		

事業名(中分類)	二次救急医療提供事業	予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	二次救急医療機関として、重症患者の救急医療に対応する。		
取組内容・結果等(D)	二次救急医療機関として、菊川市民を中心に周辺市からも救急患者を受け入れている。		
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 医師の高齢化が進み、救急医療提供体制の維持が今後厳しくなっていくことが予想される。 周辺地域でも救急体制が厳しくなっており、病院間での連携が不可欠な状況である。 		
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 救急体制維持のため、家庭医などの若手医師の招聘を推進する。 急患診療所との機能の違いなどについて、市民への啓発を行っていく。 三次救急医療機関との連携を強化していく。 夜間休日救急業務については大学医局からの支援を受けつつ維持していく。 		

事業名(中分類)	高度医療機器等の更新	予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	地域医療の中核施設としての機能を維持するため、計画的に高度医療機器等を更新する。		
取組内容・結果等(D)	令和元年度は超音波診断装置2台、手術台、関節内視鏡システムなど、47品目(110,599千円)を企業債等を充てて更新した。		
課題・問題点等(C)	医療機器更新に関しては、財政状況を考慮して、可能な限り年度ごとの負担を平準化できるよう、計画的に更新していく必要がある。		
今後の方向性(A)	特定年度に財政負担が集中しないよう、更新計画・企業債返済計画を組み立てながら医療機器の更新を進めていく。また、耐用年数の長い機械備品については、企業債の償還年限を伸ばしていく。		

施策を構成する事業評価

No.	14	担当課	菊川病院
-----	----	-----	------

1. 施策名

基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
施策名	3	家庭医養成プログラムを推進します

2. 重点事業

事業名(中分類)	多職種事業所との連携による在宅医療提供事業										予算事業番号 (予算事業名)		
事業指標	在宅延べ患者数	現状値 (H27(2015))	実績値									目標値 37年度	達成 状況(%)
		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度			
		100人/月	103人/月	103人/月	91人/月							150人/月	60.7%
事業概要	家庭医療センターでは、幅広い外来診療に加え、訪問看護ステーションや調剤薬局、ケアマネジャーとの連携により在宅医療を実施する。												
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーション、調剤薬局、ケアマネジャーと連携し、在宅医療を提供している。 在宅医療の連携施設と共催で在宅カンファレンス(月1回)を実施している。 静岡県在宅医療・介護連携情報システムを使った患者情報の共有を推進している。 通常は月2回訪問診療を行うが、容体が安定している患者さんについては、月1回訪問にしたため延べ患者数が減少した。 												
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭医療センター医師の安定的な確保が必要である。 増加する在宅医療ニーズへの対応が求められている。 												
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 静岡家庭医養成協議会、浜松医科大学と連携し、家庭医の招聘を進める。 在宅医療における地域診療所と家庭医療センターとの役割分担を推進する。 菊川病院と家庭医療センターが連携を強化することで、より安心できる在宅療養環境を整えていく。 												

3. 基本事業

事業名(中分類)	予防・健診事業										予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	小児の定期予防接種や高齢者肺炎球菌、インフルエンザワクチンなどの予防接種を推進するとともに、国民健康保険特定健診や高齢者健診などの健診事業を実施する。											
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診・高齢者健診は実施枠を午後まで拡大したことにより、受診者数が大きく増加した。(平成30年度延べ919件 令和元年度906件) 平成29年度はワクチンの入荷がストップし接種数が大幅に減少したが、平成30年度は回復し、大幅な増加となった。(平成30年度年間延べ2,559件、令和元年度延べ1,934件) 											
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 予防接種ワクチンの安定供給が不可欠である。 インフルエンザワクチンは、毎年10月後半から11月前半に全国的に不足するため、予約方法・期間の改善が必要である。 家庭医療センターの現状の体制での特定健診の受入れ数は上限に達しつつある。 											
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 引き継ぎ患者への特定健診受診や予防接種の啓発を行っていく。 家庭医の安定的な確保に努めていく。 											

施策を構成する事業評価

No.	15	担当課	菊川病院
-----	----	-----	------

1. 施策名

基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
施策名	4	市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します

2. 重点事業

事業名(中分類)	なし										予算事業番号 (予算事業名)		
事業指標	現状値 H27	実績値										目標値 R7	達成 状況(%)
		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
事業概要													
取組内容・結果等(D)													
課題・問題点等(C)													
今後の方向性(A)													

3. 基本事業

事業名(中分類)	地域医療啓発事業										予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	イベントや講演会等の開催を通して、地域医療の現状、超高齢社会における医療の展望や健康維持・予防について啓発活動を行う。											
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健予防の一環として、医療職が主に講師となり、23回の出前行政講座を実施した。 ・看護部では、まちの保健室(3回)、命の授業(12回)など市民・生徒向けのイベント・講演を行った。 ・第10回目の地域の皆さま感謝デーをスペシャルセッションとして文化会館アエルで開催、健康落語と健康講座を実施し、市民など800名が参加した。 											
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会が進む中、行政と医療機関が連携して、医療・保健予防などについて市民へ啓発することが必要である。 ・地域の皆さま感謝デーについては、来場者等が固定されつつあり、当初の病院に親しんでもらうという目的は達成されつつあり、今後の在り方を検討する必要がある。 											
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・地域包括ケアシステム、保健予防に関する講演会・イベントを開催していく。 ・出前行政講座のメニューをニーズに合わせて見直しをかけていく。 ・次年度は地域の皆さま感謝デーは10回記念のイベントを行ったうえで、事業の継続や目的を再検討する。 											

事業名(中分類)	菊川市地域医療を守る会との連携										予算事業番号 (予算事業名)	
事業概要	地域医療体制を考え、医療等に関する市民の理解を深めるために、地域医療を守る会を事務局(健康づくり課)とともにサポートしていく。											
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に総会の目録 ・役員会の開催 / 毎月 ・家庭医療センターと地域医療を守る会が連携し、認知症家族の会を開催 ・守る会たよりの2回の発行 ・地域医療シンポジウムなど4回の広域活動に参加。 											
課題・問題点等(C)	市民が市民に対して、医療・健康の課題を啓発していくことが求められている。											
今後の方向性(A)	引き続き、地域医療を守る会と連携し、医療や健康啓発事業を行っていく。											

施策を構成する事業評価

No.	15	担当課	健康づくり課
基本目標	2	健康で元気に暮らせるまち【保健・福祉・医療・社会教育】	
政策名	5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	
施策名	4	市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	

3.基本事業

事業名(中分類)	地域医療啓発事業	予算事業番号 (予算事業名)	4.1.4.104007(病院費) 4.1.1.104850(保健衛生総務費)
事業概要	関係機関と連携した医療機関や地域における医療情報の提供を行う。 休日・夜間急患診療所について、3市で適正な運営ができるよう支援する。 中東遠医療圏の医療機関等の連携と地域医療水準の向上を図る目的で、中東遠地域医療再生支援センターの管理・運営のための負担金を拠出する。		
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、広報菊川に休日・夜間救急医療の情報を掲載した。 市ホームページに医療情報を掲載している。 医療に関する情報の問い合わせに対し、随時回答している。 中東遠地域医療再生支援センター運営委員会(5市1町5病院)へ2回参加した。 		
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 3市で運営するの急患診療所では、特にゴールデンウィークや年末年始等の連休時に受診する人が多く、受診者をはじめ医師や看護師等スタッフへの負担も多くなっている。ただ、今年度は委託事務業者が代わったことで、受付や会計等の事務がスムーズになった。 また、医師や薬剤師に対しての時間外手当の支払いについての検討をし、予算に反映させた。 		
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 連休時の対応については、3市担当連絡会や急患診療所運営委員会で検討していく。 広報や市ホームページを通じ、医療情報の提供を継続する。 広域で実施している急患診療所と中東遠地域医療再生支援センターへの負担金拠出を継続する。 		

事業名(中分類)	菊川市地域医療を守る会との連携	予算事業番号 (予算事業名)	なし
事業概要	地域医療体制を考え、医療等に関する市民の理解を深めるため、菊川市地域医療を守る会の活動支援を行う。		
取組内容・結果等(D)	<ul style="list-style-type: none"> 5月の総会・講演会(出席者40人)、役員会(13回)の開催のための支援を実施した。 出前講座2回(延36人)、認知症患者家族支援「にこやか家族の集い」を家庭医療センターと共催で2回(参加者延15人)、「菊川市地域医療を守る会だより」の発行(2回)、菊川市立総合病院との懇談会(1回)、感謝のメッセージ投函ポスト設置及びメッセージの伝達、菊川市立総合病院「地域の皆様感謝デー」への参加、社協だよりへの活動紹介記事掲載等の自主事業についての支援を行った。 地域医療シンポジウムなど、広域での活動(4回)についても、役員と一緒に参加をした。 		
課題・問題点等(C)	<ul style="list-style-type: none"> 発足当初(平成26年)の会員255人、協賛会員79口であったが、令和元年度は、会員157人、協賛会員69口と減少しており、活動に対する協力者となる会員を増やすことで、活動を継続するため事業費の確保をしていく必要がある。 自主活動としての認知症患者家族支援「にこやか家族の集い」の開催や出前講座、シンポジウム等広域での活動が増えており、それに伴う役員会での打ち合わせ、会議への出席等、役員負担が大きい。 		
今後の方向性(A)	<ul style="list-style-type: none"> 広報やイベント、出前講座等を通じ、会の活動を市民に周知することで、活動の理解を促し、会員増加のための支援を行う。 自主事業の円滑な実施について、役員会を通じ支援を継続する。 令和2年度は、中東遠地域のシンポジウムを菊川市で開催予定のため、多くの人に参加してもらえよう、実施に向けての支援をしていく。 認知症患者家族支援「にこやか家族の集い」の開催にあたり、家庭医療センターと連携を図りながら、参加者の確保のための広報活動を実施する。 		